

第22回国際電気自動車シンポジウム&展示会への出展報告

新中 新二*

A Report about Participation of EVS 22

Shinji SHINNAKA*

第22回国際電気自動車シンポジウム&展示会(The 22nd International Battery, Hybrid and Fuel Cell Electric Vehicle Symposium & Exposition, EVS22)が2006年10月23日(月)~28日(土)の間、パシフィック横浜で開催された。EVS22は、電気自動車に関する国際会議とモータショーとを兼ねた国際的会合であり、この種の会合としては恐らく世界最大であろう。日本での開催は10年ぶりである。ショーには、日本勢としては、トヨタ、日産、ホンダなどの主要な車メーカーに加えて、関連独立行政法人、省・県・市、及び大学4校が参加した。

電気自動車駆動制御技術のトップランナーである神奈川大学としては、地元横浜での開催を見逃すことはできず、当初より、国際会議とモータショーの両面での参加を企図した。国際会議の参加は研究室自力でももちろん可能であるが、モータショーの参加は組織力が不可欠と考え、法人側の全面協力を得て準備を進めた。周到な準備が奏功し、会場中央部に36平米の展示スペースを確保することができた。

展示前日には試作電気自動車2台(新1号、新2号)、B1パネル4枚、配布資料を搬入し、夕方まで設営を完了した。右の写真1が展示ブースの全景であり、写真右が新1号、左が新2号である。新1号、新2号は、それぞれ、駆動モータとして誘導モータ、永久磁石同期モータを利用したセンサレス電気自動車である。本コンセプトの電気自動車の開発成功は、少なくとも国内では神奈川大学が最初である。会場では、東芝、日野自動車が2番手として同類の展示をしていた。また、明電舎が3番手として技術発表を行っていた。

展示説明は、学生教育の観点より、当学科の学部生・院生15名に、授業に支障がでないようにシフトを組み、

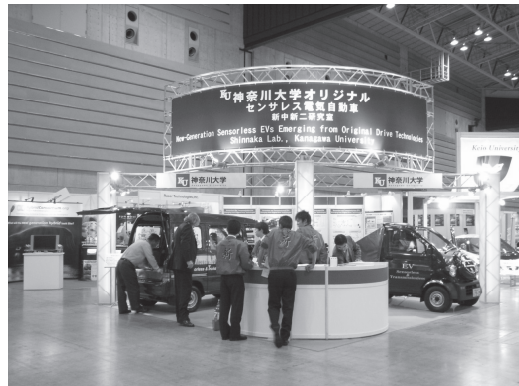


写真1 展示ブースの全景



写真2 新2号の展示風景

当たらせて。写真1、2では、赤いジャケット(デザインは教育上の観点から学生に行なわせた)を羽織っているのが担当学生である。約300名の方が名刺を置いていかれたように記憶している。

最後に、この場を借りて、産官学連携推進室・田口室長を始め、本展示に尽力をして下さった方々に対し慎んで御礼を申し上げる。

*教授 電子情報フロンティア学科
Professor, Dept. of Electronics and Informatics Frontiers